

報告

一般普及分野オンライン談話会

『星座の神話とどう向き合うか』開催報告

松岡義一（一般普及分野選出代議員）

1. はじめに

2022年6月20日、一般普及分野の有志4名による企画『Zoom 談話会 星座の神話とどう向き合うか』を実施した。以下、報告する。

2. 立案の経緯と開催に至るまで

メインの講演をお願いした小島敦さん（名古屋大学人文学研究科文献思想学繋西洋古典学専攻修士1年）は、2019年8月の天文教育研究会（長野・志賀高原）にて「かに座の同定」と題する口頭発表をされ、廣瀬匠さん（天文学史家、当時スイス連邦工科大学チューリッヒ校）に評価されるなど注目を集めた。その後、月刊『星ナビ』（アストロアーツ）2020年5月号に「かに座の蟹」、同11月号に「うお座の魚」について執筆されている。



図1 年会発表のようす（撮影：松岡）

今春、松岡が“廣瀬匠さんを聴き手として、小島さんに星座の神話にまつわる話をさせていただく”という企画を発案。まず廣瀬さんに打診したところ、快諾が得られたため、小島さんへの打診を行い、お受けいただいた。さらに、今回のテーマに強い関心に向けておられる小林道生さん（ウィキプロジェクト天体）

に当日の進行をお願いすることとなった。

準備段階のやりとりにおいては、廣瀬さんの専門的で幅広い知見と小林さんの鋭い視点が惜しみなく提供された。小島さんの草稿スライドは十二分に興味深いものであったが、よりバランスのとれた内容となった。

また、本企画の打診と、アストロアーツに所属されている廣瀬さんが星座入門書の編集に取り組まれている時期が重なるという偶然があり、本企画の準備中に『スマホで楽しむ星座入門』が発売された[1]。発売日の5月31日には、廣瀬さんがYouTubeライブで88星座すべてを3時間以上かけて解説されるという企画が行われ、われわれ3名のボルテージはより高まった。星座に関心をお持ちのかたには、書籍の入手はもちろんのこと、YouTube録画の視聴を強くお勧めしたい[2]。

なお、今回は多くの参加者が見込まれたため、進行上の混乱を避け、参加者との交流の余地を残すべく、告知範囲を狭めにとどめた（本会、日本プラネタリアム協議会、日本公開天文台協会のMLに一斉配信+ロコミ）[3]。

3. 談話会の内容

当日は、小島さんの講演（40分）、廣瀬さんが聴き手を務める小島さんとの対談、そして小林さんの進行による質疑応答とフリートークという流れで実施した。講演の詳細は本号の小島さんの投稿を参照されたい。

参加者は135名以上にのぼり、本会のZoomミーティングとしては過去最大の集会となった。今回のテーマに造詣の深い、出雲晶子さん、加藤賢一さん、服部完治さん、早

水勉さん、藤村シシンさんなどのご参加もあった。なお、申し込み段階で、参加者が所属する社会教育施設の数に 50 に達した。



図 2 小島さんと廣瀬さんの対談のようす

個人的には、小島さんから紹介された、『カステリスモイ』著者のエラトステネスに「偽」はつかない、との見解に、『星の文化史事典』（白水社）で知られる出雲晶子さんから“改訂版が出せた際には反映したい”旨のコメントが寄せられたことに瞠目した。

また、“日本のプラネタリウムで星座の神話がよく語られること”にまつわる質問があったため、小島さんが学芸員実習の際にお世話になった井上毅さん（明石市立天文科学館館長）に急遽コメントをお願いした。井上さんは見事に話のオチをつけてくださり、その華麗なダジャレには感嘆しきりであった。

2 時間ほどで一次会を締めたのち、二次会に入ったところ、最大 70 名ほどの参加者が残ってくださった。まさに談論風発の場となり、飛び入りで藤村シシンさん（ギリシア神話研究家）や服部完治さん（元名古屋科学館）が登場。なかでも、藤村シシンさんから「古代インドの宇宙観」問題に関して科学館における展示の話題が提供された場面はハイライトであった。この問題は、廣瀬さんが 2012 年の年会でそれまでの常識を覆す発表をされたことで知られる[4]。参加者から、各施設での付箋やラベルライターによる展示文言の応急修正（！）やその後の対応状況、書籍や教材における記載の変化について、さまざまな情報や見解が示されたことは、とりわけ印象的であった。

4. アンケート結果

アンケートは参加者の半数以上にあたる 74 件の回答をいただいた。満足度は 5 段階で 5 が 7 割、4 が 3 割で、3 は 1 名、2 以下は 0 名であった。あわせて難易度を問うたところ、6 割以上が「ちょうどよかった」とされ、25% 程度が難しめ、12% が易しめと回答された。

5. まとめ

本談話会は、狙いをしっかり定めた小島さんの講演と、小林さんの的確なフォロー、そしてなにより廣瀬さんの心意気があってこそ実現したものである。当日、積極的にコメントや質問をくださった多くのかたがたとあわせて、ここに心より感謝を申し上げる。

本テーマについては、JPA プラネタリウム 100 周年記念事業との連携も視野に入れて、次の展開を関係各位にご相談してまいりたい。

註 釈

- [1] 廣瀬匠 編『スマホで楽しむ星座入門』（アストロアーツ、2022/5/31 発売）
http://www.astroarts.co.jp/products/seiza_mook/index-j.shtml
- [2] 88 星座全部言えるかな？ 星座制定 100 周年 & 「星座入門」発売記念ライブ配信
<https://youtu.be/PA4beMF1J38>
- [3] 月刊星ナビ編集部 Twitter による当日午後の告知ツイート経由での参加もあった。
<https://mobile.twitter.com/Hoshinavi/status/1538758969405341697>
- [4] 廣瀬匠『天文の世界史』（集英社インターナショナル新書、2017）にくわしい。
<https://www.shueisha-int.co.jp/publish/%E5%A4%A9%E6%96%87%E3%81%AE%E4%B8%96%E7%95%8C%E5%8F%B2>

松岡義一